第８章
スポーツツーリズムの取り組み

1. スポーツツーリズムの概要

本市では、地域活性化を図る取組として、地域のスポーツ資源と観光資源を活用し、スポーツ合宿・大会・イベント等の誘致や開催支援等を行ってきました。

本市のスポーツツーリズムについては、“第５次豊後大野市総合教育計画（教育みらい創造プラン2026）及び豊後大野市スポーツ推進計画”に基づき、スポーツの振興を支えるスポーツ施設の目指すべき姿やスポーツを通じた観光の活性化を図ることを目的に、各種取り組みを推進してきました。

また、令和3(2021)年３月には「豊後大野市スポーツ施設の整備等に関する基本構想」を策定しました。その基本構想を踏まえ、施設配置の適正化に向けた適用手法の方向性を位置づけることを目的に、令和4(2022)年９月に「豊後大野市スポーツ施設の整備等に関する基本計画」を策定したところです。

スポーツツーリズムの推進については、「総合スポーツ施設」を核としたスポーツ大会や合宿等の誘致、スポーツを通じた地域経済の活性化を基本コンセプトとしています。それはスポーツ振興の担う役割が健康の推進にとどまらず、人口減少や過疎化が問題となっている中で、地域経済の活性化や観光の振興にも寄与するものとして大きくなっているためです。

この活動を推進するため、令和4(2022)年３月に地域のスポーツコミッションである豊後大野市スポーツツーリズム推進協議会を設立しました。構成団体である民間団体と行政が一体となり、スポーツ合宿等の誘致活動、スポーツ・アウトドアツーリズムの推進、情報発信及び情報収集やスポーツを通じた交流の場を設ける取り組みを進めてきました。

〈豊後大野市内のスポーツ施設〉

豊後大野市総合スポーツ施設
三重総合グラウンド
三重全天候型運動場
サン・スポーツランドみえ
多目的グラウンド
テニスコート
豊後大野市大原総合体育館
メインアリーナ
サブアリーナ
屋内温水プール
豊後大野市多機能型武道場
清川総合グラウンド
緒方総合運動公園
多目的グラウンド
ゲートボール場
テニスコート
野球場
緒方松山グラウンド
緒方米山グラウンド
緒方南部グラウンド
朝地グラウンド
朝地体育館
大野総合運動公園
多目的グラウンド
ゲートボール場
テニスコート
野球場
千歳総合運動公園
多目的グラウンド
野球場
千歳ゲートボール場
犬飼総合グラウンド
多目的グラウンド
ゲートボール場
犬飼体育館

2. 取り組み内容

①スポーツ合宿・大会・イベント等の誘致及び開催支援

これまでの取り組みとして、令和 4(2022) 年度に大分県観光産業リバイバル推進事業を活用し、構成団体がメインとなりスポーツ合宿等の誘致活動を実施しました。そして、観光商談会での営業活動、スポーツ大会、合宿開催時の「スポーツ王国ぶんごおおの」の横断幕設置などによる PR 活動を行ってきました。

また、市外からの誘客による交流人口拡大及び地域活性化に貢献するスポーツ大会・イベントを開催する主催者（競技団体等）及び大会参加者に対し、市内の特産品を贈呈する事業を実施し、令和 7(2025) 年度は 36 大会に贈呈しました。主催者からは「豊後大野市の魅力 PR になる」、「参加者も喜んでいる」など好評を得ており、市外からの誘客を促進し、周辺観光や市内での消費活動に結びつけることができました。



V.LEAGUE女子バレーボールチーム福岡ギラソールが強化合宿とバレーボール教室を開催(令和8(2026)年5月)

②スポーツ・アウトドアツーリズムなどの推進

本市には、おおいた豊後大野ジオパーク、祖母・傾・大崩ユネスコエコパークに象徴される豊かな自然や文化があります。「豊後大野市らしい」体験・交流を取り入れたスポーツ・アウトドアツーリズムの企画・開発を関係団体と連携しながら推進しており、その一つとしてサイクルツーリズムに力を入れてきました。

令和 5(2023) 年 8 月には、プロサイクルチームである「スパークルおおいたレーシングチーム」と連携協定を締結し、RTA ユース合宿や国内のプロロードレースチームの合宿誘致に取り組んできました。



スパークルおおいたレーシングチーム

また、サイクルイベントとして、自然豊かな地を活かした地元の観光素材であるサウナとコラボした「サウナ&ラン・サイクリングイベント」を開催し、県内外から多くの方が参加するイベントを実施することができました。

令和 5(2023) 年度から始めたこれらの事業は継続して実施されており、引き続き魅力あるイベントとしてブラッシュアップしていきます。

また、令和 6(2024) 年度からは、スパークルおおいたレーシングチームに豊後大野市サイクルアンバサダーになっていただき、自転車による交通安全啓発活動に加えて、地域の魅力を一緒に情報発信しています。

③情報発信

スポーツ施設、宿泊施設、飲食店、観光地などスポーツツーリズムに関する情報を集約したポータルサイト「スポーツ王国ぶんごおおの」を作成して情報発信を行ってきました。今後も、本市の魅力を一緒に発信していきます。

④受入体制の整備

(1) 宿泊事業

受入体制の整備として、宿泊助成事業を実施しています。この事業は市内に宿泊する団体に宿泊費の一部を助成するもので、令和 7(2025) 年度は 43 件延べ 5,915 泊分の利用がありました。今後も、同事業を継続して実施し、スポーツ、文化、観光等による交流人口の拡大を図っていきます。

(2) 施設管理・運営

本市の多くのスポーツ施設は、建設から 20 年以上

が経過しており、老朽化の著しい施設については改修等を計画的に行い、施設の管理・運営を行ってきました。また、改修と並行して新しい施設の建設を行い施設の充実を図りました。

平成 30(2018) 年４月には、本市大野町にサイクリングハブ施設「サイクルパークおおの」がオープンし、近年、大分市と熊本市を結ぶ高規格道路「中九州横断道路」の延伸に伴い車の通行量が減少した旧国道 57 号 (現県道 57 号) をサイクリングコースとしている愛好家が増えています。その休憩スポットとして、またトレーニング拠点として整備されており、休憩スペースはミーティングスペースとしても利用可能で、同施設内には調理スペースや車両の修理スペースを備えています。さらに、疲れた心身をリフレッシュできる足湯も利用することができます。

サイクリング愛好家だけでなく、一般の方も無料で利用することができます。



サイクリングハブ施設「サイクルパークおおの」

令和 5(2023) 年５月には三重全天候型運動場が完成し、雨の日でもトレーニングをすることができるため、野球、サッカーにとどまらず、マーチングなどさまざまなトレーニング場として利用いただいています。

その隣には、令和 6(2024) 年７月に投球練習場を設置して機能の充実を図りました。



三重全天候型運動場



投球練習場

令和 7(2025) 年度には多機能型武道場が供用開始となりました。この施設は、柔道や剣道など武道競技に特化したものではなく、バレーボールやバスケットボールなど多様なスポーツに対応できる構造となっています。



豊後大野市多機能型武道場

3. 実績・課題・今後の展望

これまでの実績として、サイクルツーリズムではRTA ユースキャンプ誘致、プロ自転車ロードレースチームの合宿誘致や観光資源であるサウナとのコラボ企画である「サウナ＆ラン・サイクリング」を実施しました。大会としては、BOSTA SPORTS FESTIVAL（令和 8（2026）年 4 月開催）（IMG ACADEMY コーチによるクリニック）や、がんばろう熊本 マイナビ ツール・ド・九州 2026（令和 8(2026) 年 10 月開催）を誘致しました。

また、受入体制の整備として宿泊助成事業を継続して実施しており、スポーツ、文化、観光等による交流人口の拡大を図ることができました。

近年のスポーツ合宿誘致により本市を利用したチームが、繰り返し本市を合宿地に選ぶリピーターとなるケースも出てきています。

本市の核となる総合スポーツ施設を中心としたスポーツツーリズムの推進による地域スポーツコミュニティの活性化、交流人口の増加による地域経済の活性化がさらに推進されることが期待されます。

今後は、豊かな自然や文化、農林水産物などの地域資源を取り入れたアウトドアスポーツアクティビティやサイクルツーリズムの推進を図り、スポーツを通じた地域の魅力向上に取り組みたいと考えています。

課題としてはまず、スポーツツーリズムをさらに推進するためには、集客だけでなく地域と連携した受入体制の整備が重要となります。行政だけでなく、地元をよく知るスポーツツーリズム推進協議会の構成団体、宿泊施設、交通事業者などの関係者が一体となり取り組む必要があります。

次に、合宿誘致・営業活動については、これまで構成団体の宿泊事業者を中心に行ってきましたが、関係者が一丸となった取り組みによる人材育成も重要です。

最後に、スポーツ合宿誘致を進めるにあたっては、宿泊施設の確保も重要な課題です。

これらの課題に対しては、地域コミッションとして立ち上げた豊後大野市スポーツツーリズム推進協議会で協議し、官民が連携して解決に努め、豊後大野市らしいスポーツツーリズムを推進していきます。